

2020年ヒラメ稚魚分布密度調査結果(日本海)について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1980年から行っており、2020年は7月7日、7月21日、8月18日、9月1日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いてつがる市沖8地点で調査を行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-169尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました(表1)。採捕したヒラメの全長組成は7月7日に水深5m及び10mで20-39mm、7月21日に水深5mで30-59、10mで30-39mm、8月18日に水深5mで50-69mm、水深10mで60-79mm、9月1日に水深5mで60-79mmが主体となっていました(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2020年は131で、1980年以降の平均値149を下回る水準でした(図3)。

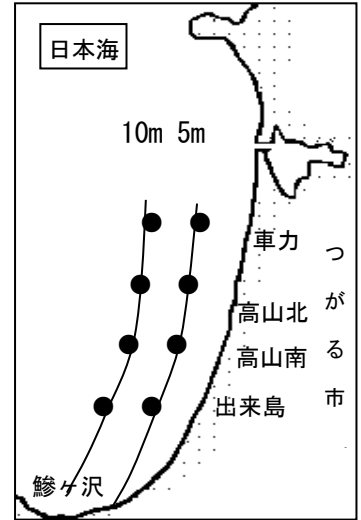


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	水深 5m				水深 10m				(個体/1,000m <sup>2</sup> )		
	調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	5m 平均	10m 平均
2020.7.7		38	29	19	0	0	5	19	8	23	8
2020.7.21		152	169	102	0	45	71	31	0	131	32
2020.8.18		11	30	38	28	3	0	17	3	27	6
2020.9.1		22	16	9	19	0	3	0	3	16	1

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

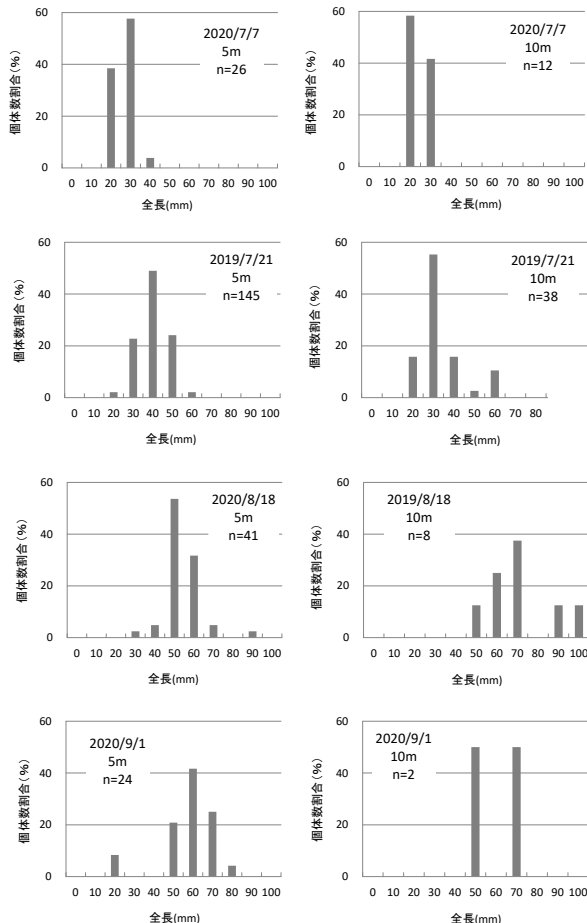


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

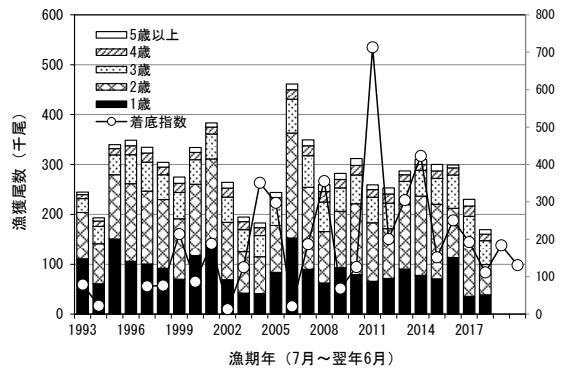


図3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移